オンプレミスアプリケーションのデータをリストア

BlueXP backup and recovery

NetApp
September 09, 2024

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/bluexp-backup-recovery/task-restore-oracle-data.html on September 09, 2024. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

オンプレミスアプリケーションのデータをリストア 1
Oracle データベースをリストアします 1
SQL Server データベースをリストアする 6
SAP HANAデータベースをリストア 9
MongoDB、MySQL、PostgreSQLデータベースのリストア 10

オンプレミスアプリケーションのデータをリストア

Oracle データベースをリストアします

Oracleデータベースは元の場所にリストアすることも、別の場所にリストアすることもできます。RACデータベースの場合、バックアップが作成されたオンプレミスノードにデータがリストアされます。

制御ファイルのリストアを含むフルデータベースのみがサポートされます。アーカイブログが AFS 内にない場合は、リカバリに必要なアーカイブログが格納されている場所を指定する必要があります。

> single File Restore（SFR；単一ファイルリストア）はサポートされません。

- 手順 *

1. BlueXP UIで、[保護>*バックアップとリカバリ*>*アプリケーション*]をクリックします。
2. [* フィルター条件 *] フィールドで、フィルター * タイプ * を選択し、ドロップダウンから [* Oracle*] を選択します。
3. リストアするデータベースに対応する **View Details** をクリックし、 **Restore** をクリックします。
4. [Restore options]ページで、データベースファイルをリストアする場所を指定します。

状況	手順
元の場所にリストアします	a. [元の場所にリストア]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. 「 * 次へ * 」をクリックします。 d. データベースの状態をリストアおよびリカバリ処理の実行に必要な状態に変更する場合は、「* Database State *」を選択します。 データベースの状態は、高いレベルから順に、オープン、マウント済み、開始、シャットダウンがあります。 ◦ データベースの状態が上位で、リストア処理を実行するために下位の状態に変更する必要がある場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。 ◦ リストア処理を実行するために、データベースの状態を低いレベルから高いレベルに変更する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにしなくても自動的に状態が変更されます。 ◦ データベースが OPEN 状態で、リストアのためにデータベースが MOUNTED 状態である必要がある場合、データベースの状態はこのチェックボックスをオンにした場合にのみ変更されます。 e. リカバリの範囲を指定します。 ◦ 最後のトランザクションまでリカバリする場合は、*[すべてのログ]*を選択します。 ◦ 特定のSCNにリカバリする場合は、* Until SCN（System Change Number）*を選択します。 ◦ 特定のデータと時刻にリカバリする場合は、*[日付と時刻]*を選択します。 データベースホストのタイムゾーンの日付と時刻を指定する必要があります。 ◦ リカバリしない場合は*[リカバリなし]*を選択します。 f. アーカイブログがアクティブファイルシステムにない場合は、リカバリに必要なアーカイブログを格納する場所を指定する必要があります。 リカバリ後にデータベースを開く場合は、チェックボックスを選択します。 RAC セットアップでは、リカバリに使用され

状況	手順
別のストレージに一時的にリストアし、リストアしたファイルを元の場所にコピーします	a. [元の場所にリストア]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. [保存場所の変更]*を選択します。 [ストレージの場所の変更]*を選択した場合は、デスティネーションボリュームにサフィックスを追加できます。このチェックボックスをオンにしていない場合、デフォルトではデスティネーションボリュームに*_restore *が追加されます。 d. 「 * 次へ * 」をクリックします。 e. [ストレージマッピング]ページで、オブジェクトストアからリストアしたデータを一時的に格納する代替ストレージの場所の詳細を指定します。 オンプレミスのONTAPシステムを選択し、オブジェクトストレージへのクラスタ接続を設定していない場合は、オブジェクトストアに関する追加情報の入力を求められます。 f. 「 * 次へ * 」をクリックします。 g. データベースの状態をリストアおよびリカバリ処理の実行に必要な状態に変更する場合は、「* Database State *」を選択します。 データベースの状態は、高いレベルから順に、オープン、マウント済み、開始、シャットダウンがあります。 ◦ データベースの状態が上位で、リストア処理を実行するために下位の状態に変更する必要がある場合は、このチェックボックスを選択する必要があります。 ◦ リストア処理を実行するために、データベースの状態を低いレベルから高いレベルに変更する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにしなくても自動的に状態が変更されます。 ◦ データベースが OPEN 状態で、リストアのためにデータベースが MOUNTED 状態である必要がある場合、データベースの状態はこのチェックボックスをオンにした場合にのみ変更されます。 h. リカバリの範囲を指定します。 最後のトランザクションまでリカバリする場合は、*[すべてのログ]*を選択します。

状況	手順
別の場所にリストアする	a. [別の場所にリストアする]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. 代替ストレージにリストアする場合は、次の手順を実行します。 i. [保存場所の変更]*を選択します。 [ストレージの場所の変更]*を選択した場合は、デスティネーションボリュームにサフィックスを追加できます。このチェックボックスをオンにしていない場合、デフォルトではデスティネーションボリュームに*_restore *が追加されます。 ii. 「 * 次へ * 」をクリックします。 iii. [ストレージマッピング]ページで、オブジェクトストアのデータをリストアする代替ストレージの場所の詳細を指定します。 d. 「 * 次へ * 」をクリックします。 e. [Destination host]ページで、データベースをマウントするホストを選択します。 i. （オプション）NAS環境の場合は、オブジェクトストアからリストアしたボリュームのエクスポート先となるホストのFQDNまたはIPアドレスを指定します。 ii. （オプション）SAN環境の場合は、オブジェクトストアからリストアしたボリュームのLUNをマッピングするホストのイニシエータを指定します。 f. 「 * 次へ * 」をクリックします。

5. 詳細を確認して、 * リストア * をクリックします。

[別の場所にリストア]オプションを指定すると、選択したバックアップが指定したホストにマウントされます。データベースは手動で起動する必要があります。

マウントしたバックアップは、アンマウントするまで再マウントできません。UIの* Unmount *オプションを使用して、バックアップをアンマウントできます。

Oracleデータベースを起動する方法については、を参照してください。 "ナレッジベースの記事"。

SQL Server データベースをリストアする

SQL Serverデータベースは元の場所にリストアすることも、別の場所にリストアすることもできます。

> Single File Restore（SFR；単一ファイルのリストア）、ログバックアップのリカバリ、および可用性グループの再シードはサポートされていません。

手順

1. BlueXP UIで、[保護>*バックアップとリカバリ*>*アプリケーション*]をクリックします。
2. [* フィルター条件 *] フィールドで、フィルター * タイプ * を選択し、ドロップダウンから * SQL* を選択します。
3. 「 * 詳細表示 * 」をクリックすると、使用可能なすべてのバックアップが表示されます。
4. バックアップを選択し、 * リストア * をクリックします。
5. [Restore options]ページで、データベースファイルをリストアする場所を指定します。

状況	手順
元の場所にリストアします	a. [元の場所にリストア]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. 「 * 次へ * 」をクリックします。
別のストレージに一時的にリストアし、リストアしたファイルを元の場所にコピーします	a. [元の場所にリストア]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. [保存場所の変更]*を選択します。 [ストレージの場所の変更]*を選択した場合は、デスティネーションボリュームにサフィックスを追加できます。このチェックボックスをオンにしていない場合、デフォルトではデスティネーションボリュームに*_restore *が追加されます。 d. 「 * 次へ * 」をクリックします。 e. [ストレージマッピング]ページで、オブジェクトストアからリストアしたデータを一時的に格納する代替ストレージの場所の詳細を指定します。 f. 「 * 次へ * 」をクリックします。

状況	手順
別の場所にリストアする	a. [別の場所にリストアする]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. 「 * 次へ * 」をクリックします。 d. [Destination host]ページで、ホスト名を選択し、データベース名を指定し（オプション）、インスタンスを選択し、リストアパスを指定します。 ⓘ 代替パスに指定するファイル拡張子は、元のデータベースファイルのファイル拡張子と同じにする必要があります。 e. 「 * 次へ * 」をクリックします。

状況	手順
別のストレージに一時的にリストアし、リストアしたファイルを別の場所にコピーする	a. [別の場所にリストアする]*を選択します。 b. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。 c. [保存場所の変更]*を選択します。 [ストレージの場所の変更]*を選択した場合は、デスティネーションボリュームにサフィックスを追加できます。このチェックボックスをオンにしていない場合、デフォルトではデスティネーションボリュームに*_restore *が追加されます。 d. 「 * 次へ * 」をクリックします。 e. [ストレージマッピング]ページで、オブジェクトストアからリストアしたデータを一時的に格納する代替ストレージの場所の詳細を指定します。 f. 「 * 次へ * 」をクリックします。 g. [Destination host]ページで、ホスト名を選択し、データベース名を指定し（オプション）、インスタンスを選択し、リストアパスを指定します。 ⓘ 代替パスに指定するファイル拡張子は、元のデータベースファイルのファイル拡張子と同じにする必要があります。 h. 「 * 次へ * 」をクリックします。

6. [Pre-operations]*選択で、次のいずれかのオプションを選択します。
   - [リストア時に同じ名前でデータベースを上書きする] を選択して、同じ名前でデータベースをリストアします。
   - データベースをリストアし、既存のレプリケーション設定を保持するには、「 * SQL データベースのレプリケーション設定を保持 * 」を選択します。
7. [Post-operations]セクションで、追加のトランザクションログをリストアするためのデータベースの状態を指定するには、次のいずれかのオプションを選択します。
   - 必要なすべてのバックアップを今すぐリストアする場合は、 [* Operational 、 but unavailable] を選択します。

     これはデフォルトの動作で、コミットされていないトランザクションをロールバックすることでデータベースを使用可能な状態にします。バックアップを作成するまで追加のトランザクションログはリストアできません。

- コミットされていないトランザクションをロールバックせずにデータベースを非稼働状態のままにするには、 [**Non-operational, but available**] を選択します。

  追加のトランザクションログをリストアできます。データベースはリカバリされるまで使用できません。

- データベースを読み取り専用モードのままにするには、「 * 読み取り専用モード」と「使用可能 * 」を選択します。

  コミットされていないトランザクションはロールバックされますが、ロールバックされた操作がスタンバイファイルに保存されるため、リカバリ前の状態に戻すことができます。

[ディレクトリを元に戻す] オプションが有効になっている場合は、さらに多くのトランザクションログがリストアされます。トランザクションログのリストア処理が失敗した場合は、変更をロールバックできます。詳細については、 SQL Server のマニュアルを参照してください。

8. 「 * 次へ * 」をクリックします。
9. 詳細を確認して、 * リストア * をクリックします。

SAP HANAデータベースをリストア

SAP HANAデータベースは任意のホストにリストアできます。

- 手順 *

1. BlueXP UIで、[保護>*バックアップとリカバリ*>*アプリケーション*]をクリックします。
2. フィールドで、フィルタ Type を選択し、ドロップダウンから HANA *を選択します。
3. リストアするデータベースに対応する **View Details** をクリックし、 **Restore** をクリックします。
4. [Restore options]ページで、次のいずれかを指定します。
   a. NAS環境の場合は、オブジェクトストアからリストアするボリュームのエクスポート先となるホストのFQDNまたはIPアドレスを指定します。
   b. SAN環境の場合、オブジェクトストアからリストアするボリュームのLUNをマッピングするホストのイニシエータを指定します。
5. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。
6. ソースストレージに十分なスペースがないか、ソースストレージが停止している場合は、*[ストレージの場所を変更]*を選択します。

   [ストレージの場所の変更]*を選択した場合は、デスティネーションボリュームにサフィックスを追加できます。このチェックボックスをオンにしていない場合、デフォルトではデスティネーションボリュームに*_restore *が追加されます。

7. 「 * 次へ * 」をクリックします。
8. [ストレージマッピング]ページで、オブジェクトストアからリストアしたデータを格納する代替ストレージの場所の詳細を指定します。
9. 「 * 次へ * 」をクリックします。

10. 詳細を確認して、 * リストア * をクリックします。

この処理では、指定したホスト上の選択したバックアップのストレージエクスポートのみが実行されます。ファイルシステムを手動でマウントし、データベースを起動する必要があります。ボリュームを利用したあと、ストレージ管理者はONTAP クラスタからボリュームを削除できます。

SAP HANAデータベースを起動する方法については、を参照してください "TR-4667：『Automating SAP HANA System Copy and Clone Operations with SnapCenter 』"。

MongoDB、MySQL、PostgreSQLデータベースのリストア

MongoDB、MySQL、PostgreSQLのデータベースを任意のホストにリストアできます。

- 手順 *

1. BlueXP UIで、[保護>*バックアップとリカバリ*>*アプリケーション*]をクリックします。
2. フィールドで、フィルタ Type を選択し、ドロップダウンから MongoDB 、 MySQL 、または PostgreSQL *を選択します。
3. リストアするデータベースに対応する **View Details** をクリックし、 **Restore** をクリックします。
4. [Restore options]ページで、次のいずれかを指定します。
   a. NAS環境の場合は、オブジェクトストアからリストアするボリュームのエクスポート先となるホストのFQDNまたはIPアドレスを指定します。
   b. SAN環境の場合、オブジェクトストアからリストアするボリュームのLUNをマッピングするホストのイニシエータを指定します。
5. スナップショットがアーカイブストレージにある場合は、アーカイブストレージからデータをリストアする優先度を選択します。
6. ソースストレージに十分なスペースがないか、ソースストレージが停止している場合は、*[ストレージの場所を変更]*を選択します。

   [ストレージの場所の変更]*を選択した場合は、デスティネーションボリュームにサフィックスを追加できます。このチェックボックスをオンにしていない場合、デフォルトではデスティネーションボリュームに*_restore *が追加されます。

7. 「 * 次へ * 」をクリックします。
8. [ストレージマッピング]ページで、オブジェクトストアからリストアしたデータを格納する代替ストレージの場所の詳細を指定します。
9. 「 * 次へ * 」をクリックします。
10. 詳細を確認して、 * リストア * をクリックします。

この処理では、指定したホスト上の選択したバックアップのストレージエクスポートのみが実行されます。ファイルシステムを手動でマウントし、データベースを起動する必要があります。ボリュームを利用したあと、ストレージ管理者はONTAP クラスタからボリュームを削除できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。